
さよならESP細胞

ジャッカル東西田

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

さよならESP細胞

【Nコード】

N5423Z

【作者名】

ジャッカル東西田

【あらすじ】

白ブリーフをこよなく愛する男

「神沼 隼人」

ある日、最強の細胞ESPが彼の身体で発見される
そして、ESPを狙う有象無象たちとの戦いが始まる

テロリスト参上！

今日は高校に入って初めての健康診断だ
生まれてこのかたブリーフ派だった俺は当然フィット感重視の白ブリーフを履いて列に並んでいた

「ふむ…… どのいつもこいつもトランクスかボクサーばかりだ。真の王者は白ヴリ以外は履かぬというのに」
俺の入った1 - 5は男子十八人。女子十三人。私立高校だからか身の周りには気を使っているような垢抜けた連中が多い

それ故に、彼らは白ヴリを小学生の履く物[〃] 恥ずかしい物と認識しているらしい
さつきからヒソヒソと俺の背後からクラスメートのものらしき嘲笑^{わらい}が聞こえてくるのはその為だろう

だが！俺は彼らのその自意識こそをあざ笑いたい
俺から観れば、彼らのトランクスやボクサーこそが恥ずべきもの
幼稚園児が履く戦隊物パンツにンコを付けたに等しい愚かさを持っているのだ

故に、俺は媚びない。引かない。省^{かえり}みない

だがその俺の勇姿を疎ましく思っているであろう人間
野球部員ー相楽修吾ーが俺に声を掛けてきた

「神沼くん、なにそのパンツ？　ちょーカッケー〜じゃーん？」
後ろにいる野球部員とクスクスと嘲笑いながら俺のブリーフを指差している

「ああ、これは雁屋崎^{かりやざき}で造られた一級品だ。匠^{たくみ}が凍れる手^{しば}で和紙を漉^すくように一枚一枚鍛えあげた逸品だな」

「ッッ！？」

俺の言葉に相楽の顔色が変わる

相楽は俺の真意を問う様にこちらを睨み付けた
俺もまたなんとはなしに相楽の方を見た

そして数秒のち

「……おい、行くぞ」

後ろの取り巻きABCに声を掛け去っていった

「何だっただんだ一体？」

よくわからないが相楽はよく俺に絡んでくる

何か俺が気にいらないうちでもしたのだろうか？

今度事情を訊いてみた方がいいかもしれない

「いやあ〜大変だったねえー」

肩をポンと叩いたのは同じクラスの新山だった

「見てたんなら助ける」

腹を殴るふりをしてふざけ合う

こいつは俺の数少ない友達である

気のいい奴だが、相当に頭がキレるので中学時代は裏番として暗躍していたらしい

「いやあ〜無理無理。相楽あいつ野球部期待のルーキーだよ？ 檀^{たん}

高^{こう}で一年からエース張れるのあいつが初めてじゃないかって言われてんだから」

檀高^{たんこう}は黒檀^{こくたん}高校の略である。スポーツが強く

野球、陸上、水泳、空手部などが何度か全国優勝している

「へえ凄^{すご}いんだな。あ、そういえば俺さあいつに何か……」
そこまで言った時

「ザッシャアー！」

保健室の窓が割られ硝子が飛び散った

見る間に顔の前で腕をクロスさせた全身に迷彩服を纏った男達が同じ様にガラスを破って室内に入ってくる

おいおい一体なんなんだ

なんかの撮影かよ？

と言った声が周りから上がる

身体測定を手伝っていた教師も最初ポカンとしていたが、やがて異変に気付いたのか

「ちよつとあなた達！今は身体測定中なんですよ？誰に断って入ってきてるんですか？」

と若干支離滅裂なことを言った

迷彩男の一人が山本（教師）に

「まあ、ちよつと待って下さい。今説明しますから……」
と言って近づいていき、腹に思い切りアッパーを食らわせた

「ぐッ……」

腹を抑え、海老反りになった所を更にエルボーで地面に沈めた

「おい、宮崎！生徒を拘束して動けないようにしておけ？あとここにいる奴らは１ー５から１ー７だ。名簿があるから顔と名前を確認しておけ？」

山本を殴り倒した迷彩服が仲間という

「おいおいキミ達いゝ。いい加減にしてくれないかな？いくら学校が用意してくれたアトラクションとはいえ僕も忙しいんだよ。この後も野球部の練習があるんだからさ」
そう言っ近づいていったのは相楽だった

「相楽よセッ！」

俺は叫んだ

だが相楽はああん？というような顔で一度こちらを振り返ると

「大丈夫大丈夫！」

といって前よりも余裕を見せ付けた舐めた態度で迷彩服たちに近づいていった

「な？大丈夫だろ」

相楽がそういつてもう一度振り返った瞬間

迷彩服の一人がコンバットナイフを取り出し、その柄で相楽の後頭部を強打した

「馬鹿が……」

山本を昏倒させたリーダー格の迷彩服が吐き捨てる

「では諸君。痛い目に遭いたくなければ大人しくしてもらおう」
もう生徒たちの全員が気付いていた

「――こいつらはテロリストだ？――と

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5423z/>

さよならESP細胞

2011年12月18日09時51分発行